

令和2年6月25日

学校法人三幸学園
広島ビューティーアンドブライダル専門学校
校長 三川 和輝 殿

学校関係者評価委員会
委員長 金永 真利那

学校関係者評価委員会実施報告

2019年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 田中 延恵 (株式会社YOU-2 取締役専務)
- ② 金永 真利那 (第3期卒業生)
- ③ 森下 圭 (飛鳥未来高等学校 広島キャンパス 教頭)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

令和2年6月10日 (会場 広島ビューティーアンドブライダル専門学校 美容実習室)

3 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2019年度 学校法人 三幸学園 広島ビューティーアンドブライダル専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 石橋亜希子

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 金永 真利那

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる(皆をハッピーにする)人材を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

①前年度重点施策振り返り

〈重点施策〉

- * 技術力を有する専門職に就く為に必要な資格取得とサービス業に従事する心構えを教育する。
 - ・資格の必要性や資格取得のメリットをしっかりと伝えと生徒に動機づけする。
 - ・定期的な教科会を実施し、手合わせや検定合格に向けての具体策を考え実施する。
 - ・検定WEEK等を使用しながら学生のモチベーションの向上や知識・技術定着の体制を整える。
- * 退学率を下げる為の改善が必要
 - ・業界の魅力を適宜伝え、生徒の不安や悩みを相談できる環境を整える。
 - ・生徒募集の際に、具体的な教育内容をしっかりと伝える。
- * 同窓会組織の活性化・認知活動による卒業生支援
 - ・地域企業との密な情報交換や連携を深め、卒業生の活躍を把握する。
 - ・卒業生の現状把握や独立支援・卒業後フォローアップの研修会等を検討する。

〈振り返り〉

- * 検定合格率の向上
 - ・入学当初に希望としていた資格に合格したことにより、卒業生アンケートの向上につながった。
 - ・検定の数字的な結果が出たことにより、教員の意識が更に上がり、授業の質への良い影響となった。
- * 退学率の低減
 - ・生徒の密な情報交換が出来ていなかった。また、生徒の悩みに寄り添いつつも、その悩みを解決するアドバイスが出来る環境が薄かった。
 - ・入学後の目標設定の際の動機づけを更に強化する必要があった。
- * 卒業生支援
 - ・卒業生対象の Sanko-Link の周知は出来たものの、閲覧を促す動線や密な情報発信が必要である。

②学校関係者評価委員会コメント

* 田中委員(トータルビューティー科について)

新型コロナウイルスでの休業など緊急的な状況を経験し、技術ができることはプロとして当たり前で、サービスとしてお客様の要望以上のことをしなければ、この先は通用しないことがわかった。資格の取得はもちろんのこと、サービス業の在り方が問われている今、あえてサービス業を選ぶのであれば、どういう自分にならないといけないかを生徒自身が課題を理解し柔軟に行動に移せなければならない。

* 金永委員(ブライダルプロデュース科について)

ブライダル業界は美容業界ほど資格が重視されていないが、だからこそ提供するサービスが大事である。お客様の要望に応えることも必要だが、現実的には予算などの面で応えられない場合もある。そのような時にどのように対応すればお客様が不満なく納得していただけるかなど、技術・知識と同等に人間力と発想力が求められている。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	2
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

①課題

生徒・保護者へ学校方針や教育理念の周知や理解を深める必要性がある。

②今後の改善方策

入学時の保護者説明会の参加を促す。欠席者に対して、浸透を図る為にも、保護者通信などで学校の方針や教育理念に対して繰り返し伝える。

③特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

＊田中委員（トータルビューティー科について）

自立をしている方や、自分の仕事にプライドを持っている方は常に自分が何をすべきか考えて分かっている。現に、新型コロナウイルスの休業期間に、自らの技術を磨くために練習をした人とそうでない人とで二極化した。学校では、理念や目標に則して、いかなる状況でも自己を高めたり組織のために動けたりする人材を育成していただきたい。

＊金永委員（ブライダルプロデュース科について）

どのような企業や学校にも理念や目標があるが、所属している全員が「どうしてこれが理念なのか、目標なのか」というところまで考えられていないことがある。字面だけではなく、その理念や目標がたてられた背景も含めた理解が必要であると思う。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

①課題

全国展開の学校法人の根幹となる運営方針、事業計画の策定、また人事労務制度等も充実している。
また年々注目度の高まる財務状況や、コンプライアンス遵守に関することも、注意喚起の実施及び研修で周知され、適切な運営が出来ている。

②今後の改善方策

労務の改善および事務的な事故防止のために、より効率的で正確な業務処理を可能にするシステムの導入及び人員確保が必要である。業務の分散を図る為にも、適宜人材の採用と、適材適所での人員配置を検討していかなければならない。

昨年度に引き続き、コンプライアンスやハラスメントの部分における理解を深める研修や事務局が設置され、教務関係や申請関係において迅速かつ正確な運営を実施。

また、昨年度、中期経営計画を策定し、次年度より実施予定である。

③特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

流行やトレンドをいち早く取り入れ、技術レベルの向上は大事であるが、企業の理念や時代の流れに沿った柔軟な発想力や対応力を兼ね備え、必要とされる人材育成の為に、現場のリアルな情報を収集するための機会を多く創出することが必要である。

② 今後の改善方策

企業訪問、卒業生訪問、インターンシップ・現場実習など、教職員および生徒が現場の方と接点を持ち、随時情報を収集できる環境を整える。

また、現状の美容業界に必要な知識と技術を生徒が主体的に繰り返し学べる環境(メディア授業を利用し)を整えることも必要。

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

＊田中委員(トータルビューティー科について)

最近、何か新たな取り組みを実施し、単に値下げをすればお客様が増えるというわけではなくなっている。集客の為には、新しいメニューの考案や、単価を下げるのではなく、サービス業としての原点に立ち返り、お客様の求めるサービスを提供する必要がある。若い方は表面的なことだけに囚われる傾向があり、お客様の要望を根本から理解し提供した先にどのように感じていただけるか、といった想像力が欠けている。より良いサービスのためにはお客様の視点に立つことが必須であり、柔軟な思考能力と対応力が強化できるようなカリキュラム・授業を今後取り入れて欲しい。

＊森下委員(全体について)

SNSの普及により、流行については生徒も情報入手が早くなっている。業界の流行やニーズを教員が知らないということにならないように、実際の現場と教育業界で連携して生徒・業界どちらのニーズにも合わせていく必要がある。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

① 課題

卒業後の生徒支援として、Sanko-Link（WEB）が立ち上がっているが、周知や運用が出来ていない。
卒業後も継続的に卒業生の活躍を確認し、学校や後輩へ還元出来るシステムの構築が必要。
現、美容業界のニーズや生徒の就職に対するスタンスを理解し、適切な就職活動を斡旋する。退学率や離職率の低減に努める。

③ 今後の改善方策

SANKO LINK 等を利用して、現在の卒業生の活躍や学校行事等の情報発信を行う。
また、卒業してからも、研修等を実施し、現状の不安を解消することや、技術力の向上を促す、卒業生が学べる環境を提供していくことも必要。

③特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

＊田中委員(トータルビューティー科について)

資格を取得していると、働き始めた際に技術のスタートは早くできるが、サロンワークは全くの別物なので学校で全てを補うということは難しいと思う。ただ、資格を2年間でしっかりと取得しようと意欲的に頑張った生徒は、サロンワークを教えた時にも理解力や適応能力が優れている。逆に、資格取得への意欲はなくてサロンワークの理想だけで過ごしている生徒は社会に出て通用しない傾向にある。そのため、学校のスタンスとしては、まずは資格取得を第一にして良いと思う。また、専門学校で学んだ知識は、現場でも役立つため、より一層、1つ1つの授業を大事にして欲しい。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	1

① 課題

卒業後の支援については、随時フォローアップする体制はあるが、連絡待ちの姿勢であり、相談等がなければ難しい現状である。教務事務を配置し、就職先情報を管整理できるようにする。

また、卒業後の独立支援に対して、整備が整いつつあるが、更なる支援体制を考案し提案する必要がある。

保護者支援に関しては、電話や保護者通信等を利用しながら情報の共有と指導に対する協力体制を整えようとしているが、なかなか、ご理解が頂けない環境も散見しました。情報を密に、協力体制を整える必要がある。

② 今後の改善方策

保護者との連携は、今後も細めな連絡を継続することで良好な関係を築き、生徒の後押しを担っていただけるよう働きかけをする。

卒業生の独立支援に関しては、独立をする前に必要な知識の修得や研修で情報提供が出来る場を創設する必要がある。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

＊田中委員(トータルビューティー科について)

昨年までは人材不足だったが、新型コロナウイルスで失業した方々が求人にも多数応募していただけるようになった。そのため、これまでよりも企業が人を選ぶようになり、求められる基準も高くなっている。しかし、休業期間が明けてこれまでのお客様が100%戻ったとは言い難い。そのような状況で人を新たに雇うことに懸念もある。企業としては、人間力を磨き、何事にも本気で取り組める人材を求めている。

＊金永委員(プライダルプロデュース科について)

今年度の新卒は休業等もあって、本来であればお客様と接する中で教育をしていくが、十分に教育を提供できない状況にある。そのような中でも先輩からの話を素直に聞き入れる人は伸びていく傾向にある。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

映像授業の取り入れ準備が必要。各教室の映像機器の設置(プロジェクター)Wi-Fi 環境の整備

② 今後の改善方策

メディア授業に向けての、生徒の Wi-Fi 環境の確認と、SankoGate の整備

③特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

* 田中委員(トータルビューティー科について)

会議や研修はリモートで行うことが増えた。対面で顔を見ながら話していくことが難しくなったため、これまで以上に1つ1つの言葉に意識を向けて、言葉の力を使っていく必要がある。リモートだからこそ、限られた時間の中で、この話の意図をどの様に伝えていくかを考えるようになった。メディア授業をする時に、時間の配分や、使う言葉をしっかりと選ばなければ、生徒への浸透は難しいと思われる。

* 森下委員(全体について)

メディアでの授業展開を進めているかと思うが、最終的には人と関わる仕事ため、技術というところを含めてサービスの本質をきちんと学んでいく必要がある。特にネットでは買えないものを提供するという点ではサービスに力を入れていかなければならないと感じた。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

なし

③ 今後の改善方策

なし

③特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

①課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

②今後の改善方法

【中期計画】

現在、第2中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

①課題

特になし

②今後の改善方策

特になし

③特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2

① 課題

サロワークの授業及びオープンキャンパス開催などとの調整の都合上、地域に対しての講座等の開校は現実的に難しい。

② 今後の改善方策

インターンシップなどで授業単位に振替えることができれば実施可能だが、トータルビューティー科において、その制度は整っていないため要検討。

地域や企業から求められるボランティアに関しては、積極的に協力できる体制を整え、生徒に学びの機会を提供する。

③特記事項

なし

③ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	2
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
学内で適切な体制が整備されているか	2

① 課題

現状、分野特性として国際交流を進めるといふ観点を持っていない。

ただし、海外のお客様も増えている事を踏まえ、外国人とのコミュニケーションが取れるように検討が必要。

②今後の改善方策

検討していく。

③特記事項

なし

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

* 田中委員(トータルビューティー科について)

新型コロナウイルスの影響で外国のお客様も来られていなかったが、もともと数はそんなに多くないので大きな打撃ではない。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今回、新型コロナウイルス禍における大きな世の中の変動があり、技術力を有する専門職に就く為に最低限の資格取得は必須であり、更に、サービス業の在り方をしっかりと理解した上で、お客様のニーズに合わせて提供できる人材育成が必要である。その為にも、日頃からの人間力を磨ける仕組みや、実践力を向上できる授業の展開が課題である。

また、今後のコロナ等の影響を考え、教育の質の担保をしながら、学校内だけの教育に留まらず、更に業界・企業との連携の中から、新たな教育手法や行事での教育効果に期待をしたい。